

# 名古屋市熱田区におけるハクビシン (*Paguma larvata*) の胃内容物の一例

曾根 啓子<sup>(1)</sup> 野呂 達哉<sup>(2)(3)</sup>

<sup>(1)</sup> なごや生物多様性センター 〒468-0066 愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

<sup>(2)</sup> なごや生物多様性保全活動協議会 〒468-0066 愛知県名古屋市天白区元八事五丁目230番地

<sup>(3)</sup> 四日市大学環境情報学部 〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200番地

## A note on stomach content of the masked palm civet (*Paguma larvata*) from Atsuta-ku, Nagoya city, central Japan

Keiko SONE<sup>(1)</sup> Tatsuya NORO<sup>(2)(3)</sup>

<sup>(1)</sup> Nagoya Biodiversity Center, 230 Motoyagoto 5-chome, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

<sup>(2)</sup> The Nagoya Biodiversity Conservation Activity Council, 230 Motoyagoto 5-chome, Tempaku-ku, Nagoya, Aichi 468-0066, Japan

<sup>(3)</sup> Faculty of Environmental and Information Sciences, Yokkaichi University, 1200 Kayo-cho, Yokkaichi, Mie 512-8512, Japan

Correspondence:

Keiko SONE E-mail: sonekei@hotmail.co.jp

### 要旨

2020年3月8日、名古屋市熱田区のマンションにおいて、機械式立体駐車場の装置に挟まれて死亡したハクビシン (*Paguma larvata*) が発見された。この個体の胃内容物から、ミカンの外皮および果皮、クチナシの実、調理されたカット野菜 (レタス, キャベツ), トリ軟骨, 肉の脂身, イモムシ (鱗翅目幼虫) が確認され、イモムシを除く内容物はすべて人工食物 (廃棄ゴミ) に由来するものと推察された。

### はじめに

ハクビシン (*Paguma larvata*) は食肉目ジャコウネコ科の中型外来哺乳類であり、かつては田園部での生息が中心であったが、近年、都市部の住宅地にも進出して定着している (子安, 2021)。名古屋市では、本種は民家へ侵入して騒音被害や糞尿被害を引き起こす害獣として問題となっており、市内一円で捕獲も行われている (曾根・野呂, 2022)。本種は雑食性で、果実を好み、昆虫類、両生類や爬虫類等の脊椎動物のほか、市街地やその近郊では食物残渣、農作物、果実などの人工食物も利用することが知られている (Torii, 1986; 立脇ほか, 2009; 姉崎ほか, 2010)。名古屋市においても、都市部の住宅地に入り込んだ個体が生ゴミなども餌としている可能性は

極めて高いと考えられるが (子安, 2021)、これを示す直接的な証拠はこれまで示されていない。今回、市内中央部 (熱田区) の住宅街で発見された死亡個体の胃内容物に、廃棄ゴミに由来すると思われる人工食物が多数認められたので、これについて報告する。

### 発見の経緯

2021年3月8日、名古屋市熱田区波寄町にある高層マンションに設置されている機械式立体駐車場の装置に、1頭のハクビシンが挟まれて圧死しているのが発見された。発見の通報を受けたなごや生物多様性センター (以下、センター) 職員 (野呂) が現場に向かい、死亡個体を回収して、センターに持ち帰り冷凍庫で保管した。

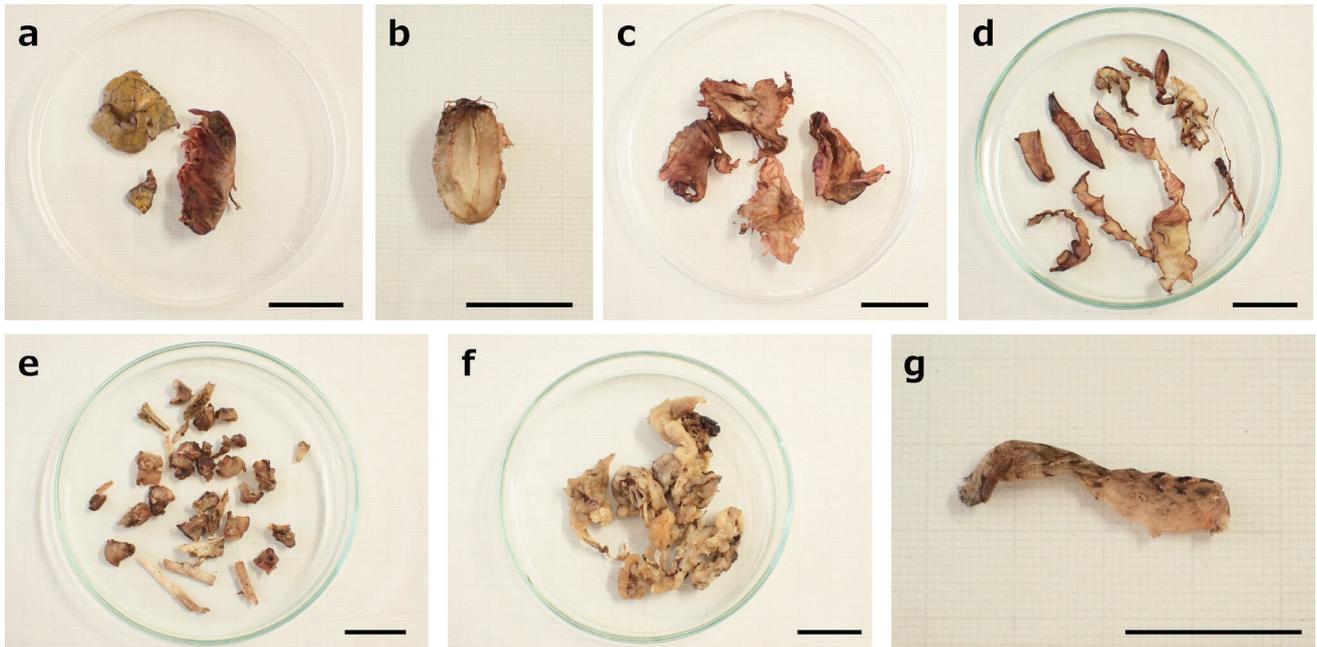


図1. ハクビシン (標本番号: NBC-MA00560) の胃内容物 (スケールバー: 2 cm).

a. ミカンの外皮および果皮, b. クチナシの実, c. レタス, d. キャベツ, e. トリ軟骨, f. 肉の脂身, g. イモムシ (鱗翅目幼虫).

### 剖検結果

センター職員(曾根)によって、回収した個体の外部形態計測および剖検が実施された。この個体は雌で、頭胴長が403 mm、尾長が331 mm、後足長が77 mm、耳長が42.3 mmであった。なお体重については、腹部が破裂して出血や臓器の損失が認められたため、計測できなかった。後日に頭骨標本(標本番号: NBC-MA00560)を作製し、歯の交換・萌出の状態を確認したところ、6~12か月齢の若い個体と判断された。胃の内容物を1 mmメッシュの金属フルイで水洗選別したところ、ミカンの外皮および果皮、クチナシの実、調理されたカット野菜(レタス、キャベツ)、トリ軟骨、肉の脂身、イモムシ(鱗翅目幼虫)の7品目が確認された(図1)。

### 考察

今回観察された7品目のうち、カット野菜やトリ軟骨、肉の脂身は、明らかに人工食物であると考えられた。また、ミカンおよびクチナシについても、いずれも実の収穫時期ではなく、またハクビシンが好む果実であるにも関わらず1個ずつしか認められなかったことから、先のカット野菜などと同様に、人工食物に由来するものであ

ると推察された。この個体が発見された環境が都心部の住宅街であったことを踏まえると、この付近の民家もしくは飲食店から出された廃棄ゴミである可能性が強く示唆された。これまでハクビシンの胃・消化管内容物に認められた人工食物の例としては、調理されたサンマやタマネギ、ゼンマイ(Torii, 1986)、カット野菜(姉崎ほか, 2010)などが報告されており、植物質、動物質を問わず様々なものが餌として利用されているようである。名古屋市においてハクビシンが市内一円に生息を拡大した背景には、ハクビシンの食性の幅広さ(姉崎ほか, 2010)に加えて、人間の廃棄ゴミでも厭わず利用する順応性の高さが寄与しているものと推察された。なお、今回確認された胃内容物は、すべて液浸標本としてセンターに保管されている。

### 謝辞

センター職員の西部めぐみ氏に、胃内容物の分析についてご助言頂きました。

### 引用文献

姉崎智子・坂庭浩之・田中義朗. 2010. 群馬県におけるハ

- クビシンの食性と生息状況. 群馬県立自然史博物館研究報告, 14 : 99-102.
- 子安和弘. 2021. ハクビシン. 愛知県環境調査センター(編). 愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち2021, pp. 49. 愛知県環境局環境政策部自然環境課. 名古屋.
- 曾根啓子・野呂達哉. 2022. 2011年度から2020年度になごや生物多様性センターに収蔵されたハクビシン (*Paguma larvata*) の標本カタログ. なごやの生物多様性, 9 : 107-116.
- 立脇隆文・笹岡直子・高槻成紀. 2009. 東京郊外におけるタヌキとハクビシンの食性比較. 日本生態学会第56回全国大会講演要旨. PC 1-392.
- Torii, H. 1986. Food habits of the masked palm civet, *Paguma larvata* Hamilton-Smith. J. Mammal., 11: 39-43.